

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第 1 5 号
2011年8月発行



障害児者総合支援センター青嵐荘 日中一時支援事業夏休みの様子
みんなでスイカ割りを行い、美味しくいただきました。

もくじ

CONTENTS

東日本大震災から学ぶ・・・2	児童福祉施設トピックス	芳香会活動報告・・・6
被災地支援活動・・・2	たま保育園・・・4	芳香会スケジュール・・・6
	牛ヶ谷保育園・・・4	編集後記・・・6
	両保育園合同行事・・・4	
障害児者総合支援センター		
青嵐荘&CH輝希のいえ・・・3	保健・医療職のちから	
朝採り新鮮野菜の販売・・・3	～活躍するPT・OT～・・・5	



この度の東日本大震災において被災されました方に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧・復興をお祈りしております。

東日本大震災から学ぶ



社会福祉法人 芳香会
理事長 宇留野光子

三月十一日の大震災発生から半年を迎えようとしています。新聞の欄に載る死亡者・行方不明・避難者数を見るたびに心がいたみず。

しかし、反面では「被災地のみなさんに何かをしたい」、「これが協力できる」等の記載文章には心温まるものがたくさんあり、多くの人々の実行力と活動内容には感心しております。そんな刺激をいただき、当法人でも「今年度中は被災地支援活動を継続的に実行できることを考え、組織全体で取り組もう」と目標を掲げました。

三月末から八月現在までに被災地支援活動に携わった職員数は、全体で三十九人となりました。活動の内容は様々です。実施前に希望者を募り実践してきました。複合施設運営の利点を大いに生かす事ができました。

また、活動の協力者として、地元の方々から寄贈があり、白米一・五トンやエレクトーン四台を被災地に届ける事ができました。これも嬉しい結果が生まれました。

支援はこれから・これからです。



被災地支援活動

中央共同募金会 助成金を頂きました

三月十一日の東日本大震災発生の際には、芳香会施設においては幸い人災はなく、一部の施設において停電、断水にて数日の間不自由はしたものの、比較的被害は少なく済みました。その際に、関係者の方から支援を頂き、支援の重要さを感じました。

芳香会では、被災地において不自由な生活を余儀なくされている方々に何か出来る事がないかと、理事長を筆頭に被災地支援活動を行ってまいりました。そんな中、中央募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業の事を知りました。



この助成事業は、実際に被災地支援にかかった費用の一部を助成いただくものです。復興の目的が立たず、長引く避難生活に継続した支援が必要となりますが、多くの費用がかかるのも現実です。この助成金は支援を行う側へのサポートであり、金銭面の問題は軽減され、結果、被災地の方への支援になります。



芳香会では今後も支援を継続するべく応募、この度、決定を頂きました。今後も被災地の復興を祈り、出来る事を地道に続け、少しでもお役に立てればと思っております。



活動報告

ここでは、芳香会が行ってきました、支援活動の報告を致します。

- 三月二十八日 北茨城市へ食事提供、ときわ荘慰問、物資輸送
- 三月二十九日
- 四月四日 岩手県船越保育園・山田第一保育所へ衛生用品など物資送付
- 四月十三日 募金活動実施、茨城県災害対策本部・NPO法人サンダーバードへ送金
- 四月二十一日 岩手県山田町への衣装ケースなど物資送付
- 四月二十五日 岩手県宮古市へのお米など物資輸送
- 四月二十六日
- 四月二十五日 岩手県山田町へのジャージなど物資送付
- 五月二十九日 宮城県石巻市等沿岸部への管理栄養士派遣（第一回）
- 六月一日
- 六月四日 宮城県石巻市への物資輸送・奨学金制度の案内持参
- 六月四日 岩手県セルフ製品代理販売（ネーブルパークほたる祭り内）
- 六月十二日 宮城県石巻市等沿岸部への管理栄養士派遣（第二回）
- 六月十五日 宮城県本吉郡南三陸町への真空調理食材提供・輸送（第二回）
- 六月十五日 宮城県石巻市へロッカー、市内幼稚園へのエレクトーン（中古）輸送
- 六月二十七日 宮城県本吉郡南三陸町へ真空調理食品提供・輸送（第三回）
- 七月二日 石巻市内保育園2ヶ所へのエレクトーン（中古）輸送
- 七月二日 古河市社会福祉協議会主催「がんばろう東日本ボランティアパック」に参加（泥のかき出し、瓦礫の撤去）
- 七月四日、毎週月曜 宮城県本吉郡南三陸町への真空調理食品の送付
- 七月九日 岩手県セルフ製品代理販売（たま保育園夏祭り内）
- 七月二十三日 岩手県セルフ製品代理販売（牛ヶ谷保育園夏祭り内）
- 七月二十五日 石巻市内保育園へのエレクトーン（中古）輸送
- 七月三十日 岩手県セルフ製品代理販売（積水ハウス古河工場様夏祭り内）



障害者総合支援センター青嵐荘 & ケアホーム輝希のいえ 開設



日本財団の助成により、今年五月に障害児者総合支援センター青嵐荘（以下センター）が、古河市上大野に開設しました。開設までに東日本大震災の影響があった中、日本財団を始め、古河市や建築関係者など、多くの皆様の協力を得、無事開設することができた事を感謝したいと思います。

センターでは、主に四つの事業を法人内の障害児者施設が中心となり展開しています。



初めに日中一時支援事業（青嵐荘療護園）になります。一日定員十五名にて実施しています。古河市初となる重症心身障害児者放課後受入れを特徴とし、現在では二十三名の児童にご利用頂いています。

次にケアホーム輝希のいえ（青嵐荘路のとう舎）になります。現在、知的障害者五名が入居しています。自分のペースでゆとりのある生活を送ることが出来るよう支援させて頂いています。



次に相談事業（青嵐荘療育園・つくし園）になります。地域療育等支援事業のコーディネートと古河市相談支援事業の相談員が出張形式でセ

ンターへ出向き、ワンストップで相談等が受けられる体制になっています。

最後に芳香会社会福祉研究所（法人本部）になります。研究の成果を地域の皆様に還元できるように、日々研究に取り組んでいます。

	収 支	助成・補助機関
建 物	事業費総額 47,152,378円	日本財団助成金・福祉拠点の整備 日中一時支援事業所及び障害者ケアホームの整備／診療所改修  日本財団 助成事業 The Nippon Foundation
	自己負担額 37,152,378円	
	日本財団助成金 10,000,000円	
生活環境 諸 物 品	事業費総額 4,401,818円	古河市社会福祉施設整備費補助金
	自己負担額 3,901,818円	
	古河市補助金 500,000円	

各事業が、それぞれ機能し、また、連携し合い、地域の福祉の増進につながるよう努めて行きます。

つながり・手から手へ 朝採り新鮮野菜の販売

平成二十二年十月発行の「せいらんそう」第十二号で掲載した朝採り野菜の販売は、二年目を迎え、様々な発展を迎えています。

《芳香会の地産地消》

養護老人ホーム・路のとう舎のご利用者により生産された野菜は、担当職員により各地区へ運ばれ、現在では雇用障害者の皆様により販売がなされています。施設利用者による生産、雇用障害者による販売、職員等による消費というサイクルの中で、芳香会に所属している自覚が深まってきたように感じられます。特に販売を担当している雇用障害者の皆さんは、店頭販売だけでなく通常業務でもより元気に取り組んで頂くようになりました。



《販売先の拡大》

平成二十三年七月からは、㈱エフピコの間東リサイクル工場にて朝採り野菜の出張販売を行わせていただいています。こちらの関東リサイクル工場へは、『発砲スチロールトレー』のリサイクル活動でお世話になっていることが縁となり、販売先の拡大へとつながりました。芳香会内だけでなく、様々な交流の輪が広がっています。地域の力の重要性が痛感されている今、この繋がりを大切に、そして私も芳香会も新たな力となるよう努めてまいります。



児童福祉施設トピックス

【たま保育園】

夏祭りを終えて…

今回たま保育園では、東日本大震災の被災地復興支援を掲げた七夕夏祭りを実施致しました。まず復興支援のひとつとして被災地の授産施設で作られたクッキーやかりんとうの代理販売や募金活動を行いました。販売においては、お客様で完売を致しました。



さらには計画停電を考慮し極力電力を使わずに行えるよう考え、中でも夏祭りの楽しみでもある模擬店では自然解凍で提供できるものの提供、また保護者の方々ははじめ地域の方々にご協力を頂き、全て地元の食材を使って作らせて頂きました。そして、在園児の保護者様のご協力によるたこ焼き販売も大変好評でした。改めて多くの方々のご協力があったからこそ行うことができた夏祭りであったことを実感致しました。



当日は、結城ケーブルテレビの取材があり、また丁度梅雨明けと重なる暑さの中、多くの方々の力で作り上げた今回の七夕夏祭りはたま保育園にとっても良い経験となり、また最後まで笑顔の子も達から元気と力をもらった夏祭りでした。

【牛ヶ谷保育園】

保育園での

空き缶リサイクル活動

芳香会全体の活動でもある【空き缶リサイクル事業】を平成二十三年度四月より、古河市内の近隣民間保育園の方々からもご賛同を得、旧総和地区において四園、旧三和地区においては一園、そして結城地区では四園の皆様にご協力いただいています。

回収にご協力頂く際の約束事項として、毎月末に電話にて回収の状況を確認し、こちらから取りに行きます。普段の仕事では、他の保育園を訪問する機会も少ないことから、個々の保育園の所在する環境や建物の内外の作りを見たり、職員の方々とのお話もでき、楽しいひと時でもあります。

また、路のとう舎のご利用者が栽培する【ありがとうフラワー】をご利用者と職員とで協力いただいている保育園を訪問し、

園園を訪問し、届けています。このことはとても好評であり、新たな人間関係づくりにもつながっています。これから【空き缶リサイクル】を通して、保育園でも出来る地域の輪作りを広げて行こうと考えています。

空き缶回収協力園		
保育園名		
総和地区	1	(福)総和福祉会 総和保育園
	2	(福)ホザナ会 こぼと保育園
	3	(福)友愛福祉会 白梅保育園
	4	(福)百花会 あゆみ保育園
三和地区	5	(福)慈法会 三和保育園
結城地区	6	結城市立 城西保育所
	7	結城市立 山川保育所
	8	結城市立 上山川保育所
	9	(福)三国福祉会 みくに保育園

【両保育園合同行事】

ともだち百人できるかな？



今年度より、牛ヶ谷保育園とたま保育園の園児、四〜五歳児を対象に月に一度交流会を設けています。法人内に二園ある保育園同士でお互いの園を交互に行き来し、合同で行事等を行っており、その都度内容には工夫をこらしています。

出来るだけ子ども達が楽しく過ごせるよう自己紹介やゲームをする等、初めての友達にも慣れて貰えるように考えておりますが、こちらの心配はど吹く風、初対面でも子ども同士声を掛け合い、自然と仲良くなる姿が見られます。その姿はとても微笑ましいです。新たな友達と触れ合ったり、大きな集団に入ることや小学校へのステップアップにも繋がるのではないかと考えています。また、ゲームのあとは、必ず園庭で遊びます。自分の園にはない玩具や固定遊具があるので、毎回子どもたちは大はしゃぎです。互いの園の保育士とも顔見知りになり、保育士との関わりも増えてきています。

そして八月には、二園合同で年長児のお泊り保育を行いました。合同のグループで買い物やバーベキューをしたり、大きなお風呂に入ったりと楽しく過ごす事が出来ました。

職員同士も良い情報交換の場となりました。

いつもとは違った一日の生活が子ども達の良い思い出になることを願っています。





保健・医療職のちから

～活躍するPT・OT～



社会福祉事業において、多数派を占める福祉・介護職。そんな中であって、少数派ながら重要な位置を占めるのが保健・医療職。中でもリハビリの専門職である理学療法士・作業療法士（以下、PT・OT）のニーズは高まり、様々な場面で活躍しております。

そこで、今号では、PT・OTの活動をご紹介します。

茨城県立医療大学保健医療学部理学療法学科

『地域理学療法実習』の受け入れ

芳香会では、平成九年から毎年、茨城県立医療大学保健医療学部理学療法学科の三年生の『地域理学療法実習』の受け入れを行っております。

芳香会内のPT・OTが実習プログラムを作成し、講義や施術場面の見学を通じ、社会福祉事業におけるPT・OTの役割等を理解していただくことを目的としております。

ここでは、実習に参加された学生さんの感想をご紹介します。

『今回、福祉領域の理学療法について勉強させていただき、理学療法分野がこんなにも様々なことに力を貸せることに驚いた。町に出たり、他分野の専門家とともに相談にのったりと、今まで聞いたことのなかった仕事を教えていただいた。これらの仕事もだが、施設で働く理学療法士はとて少ない。それだけに他の理学療法士仲間と相談できる機会は病院に比べれば極端に少なく、自分の意見がそのまま表に出る場面が多いため、知識の豊富さが必要となる。』

『講義では福祉施設やその施設ごとの事業内容（生活支援・在宅サービス）を系統的にわかりやすく学ぶことができ、いままで学んだ知識が整理されました。ほかにも興味深い話が多々あり、終始興味を持って聞かせていただいたのです。福祉領域の流れについてのお話です。落合施設長の講義の中にあつた「青嵐荘では平成六年から箱物（福祉施設）を作っていない。在宅支援に力を入れ始めている」という言葉が印象的で、福祉領域の流れが施設での支援から、在宅での支援に変革してきていることを認識することができました。』

『地域の場にて活動する理学療法士には、数少ないリハビリテーションのスタッフなので求められることも多く、職種間でのコミュニケーションが必要になってくると思います。講義の際にもお話がありました。講義の際にもお話がありました。講義の際にもお話がありました。』



『講義では福祉施設やその施設ごとの事業内容（生活支援・在宅サービス）を系統的にわかりやすく学ぶことができ、いままで学んだ知識が整理されました。ほかにも興味深い話が多々あり、終始興味を持って聞かせていただいたのです。福祉領域の流れについてのお話です。落合施設長の講義の中にあつた「青嵐荘では平成六年から箱物（福祉施設）を作っていない。在宅支援に力を入れ始めている」という言葉が印象的で、福祉領域の流れが施設での支援から、在宅での支援に変革してきていることを認識することができました。』

地域の老人クラブとの交流会

青嵐荘ケア・アシスタンス（介護老人保健施設）では、平成二十一年から地域の老人クラブとの交流会を実施しております。

この交流会では、施設利用者と地域の方との交流を目的としているほか、PT・OTも「体力測定」を実施しております。

握力や体前屈などのメニューを実施し、測定結果を参加者に提供するほか、PTやOTにとつても、地域で生活する高齢者の生活実態を把握することができ、有意義な機会となっております。



在宅支援訪問療育等指導事業の実施

芳香会病院青嵐荘療育園（重症心身障害児施設）では地域療育等支援事業の一環として「在宅支援訪問療育等指導事業」を実施しております。

これは、専門職を「自宅へ派遣し、リラックスできる環境の中で療育訓練を行うほか「自宅での療養生活における」家族からのご相談に専門的な見地から応じるものです。

療育園では、現在、三名のご利用者に対しPTを派遣しております。二週間に一度、PTがご自宅へお伺いし、約一時間、「ご自宅での生活を踏まえた上での訓練を実施するほか、ご家族との面談にも時間を割きます。

普段は見ることでできない「ご利用者の日常生活を見ることができ、その上で「どうすれば快適に生活できるのか」を考えることは、PTにとつても非常に勉強になる機会となっております。

芳香会活動報告

みんなのちから

六月二日（木）に茨城県赤十字血液センター、地元自治体の協力の下、「移動献血」を実施しました。初めての試みでありましたが、法人外部の事業所からも多くの方にご参加いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

第1回移動献血 実施結果

総数	61名	
内訳	400ml	45名
	200ml	16名
法人内 法人外	法人内	40名
	法人外	21名



上大野合同厨房 生ごみ処理機の導入

年間約二十トン。これは上大野地区から出された生ごみの量です。そこで費用削減と環境への配慮から、生ごみ処理機の導入を行いました。投入した生ごみは水と炭酸ガスに分解され、翌日には何も残っていません。今後「対前年度比 〇〇パーセント減」と報告できればと考えています。



また排出される水は、分解された有機物が含まれ、液肥として再利用ができます。この液肥は、芳香会で行う様々な植栽活動に使用し、希望した職員や近隣の方へ配布が出来ればと計画しています。

芳香会HP アクセス状況

現在では、インターネット利用者は人口の八十パーセントに達し、新聞を読む時間よりも長く利用しているというデータが出ています。当法人も広報の顔としてHPを運営しています。今回はそのアクセスの記録をご紹介します。



検索文字列TOP3
1位 芳香会
2位 青嵐荘
3位 青嵐荘療育園
※平成23年7月期

この記録は、より良い広報活動へ繋げる資料の一つとして活用していきます。

芳香会スケジュール

- 九月一〜三日 役付職員研修会
ラフォーレ那須
- 九月九日 第一回 社用車実務研修会
県西自動車学校
- 九月二十八日 第二回 個人情報保護研修会
交通安全講習会
- 十月 中旬 近隣地域の芸術祭への参加
下旬 第二回 苦情受付体制委員会
主催研修会
- 十一月 上旬 第二回 社用車実務研修会
中旬 第一回 中途採用職員研修会
理事・評議員会

編集後記

震災から五ヶ月以上が経過します。TV報道でも【復興】を知らせる内容のものが増加しましたが、現地では大量のがれきが積みあがった状態が散在します。先日、南三陸町に行く機会を得、現実の光景を見て心が痛み、今後の自達ができることを再考する良い機会となりました。

（光）
節電の夏、いかがが過ぎでしょうか？我が家も暑さと格闘する毎日です。そんな時、役に立つのが先人の知恵。昔の話を熱く語る祖父母の傍らで、熱心に聞き入る子ども達。「節電もありかも」と思った、暑い夏の夜の出来事でした。（酒）
今年も寝苦しい日々が続きます。節電が叫ばれる中、様々な節電&快眠の対策を実行しましたが、効果はいまひとつ。便利すぎるエアコンの力を実感した夏でした。（川）

社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp



※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。